

ゼカリヤ書 8 : 4 - 5 (パワポ)

Preface

聖書を読んでいく中で、このゼカリヤ書 8 : 4 - 5 の御言葉に出会い、心躍りました。

なぜならば、土浦めぐみ教会の姿が描かれているようだったからです。

喜楽希楽サービスのお年を召したご利用者の方々がめぐみ教会のグラウンドを見ますと、マナ愛児園のかわいい子供たちが楽しそうに遊んでいます。

からしだねの子供たちも、楽しそうに遊んでいます。

森の学園の子供たちは、真剣に檄を飛ばしながら野球をしたり、サッカーをしたり、運動会の練習をしたりと、マナやからしだねの子どもたちとはまた違った、楽しくも迫力ある姿がそこにはあります。

コロナのためここ最近は出来ていませんが、年に何回かは、子どもたちが喜楽希楽サービスを訪ねて行き、顔と顔とを合わせて一緒に食事をしたり、お交わりをすることもあります。

また今週の土曜日にも開かれますが、年に 1 回、グラウンドで行うマナ愛児園の運動会には、今度は喜楽希楽会の方々が出席をして、子どもたちのかわいい勇姿を見学いたします。

そして毎主日、毎週日曜日の土浦めぐみ教会には、子どもたちの元気な姿が溢れると同時に、それを幸せそうに感じている沢山の大人の方々、お爺ちゃんお婆ちゃんがおられます。

正にゼカリヤ書 8 : 4 - 5 の御言葉通りの様子が、土浦めぐみ教会に与えられていることが、何と感謝で幸いなことなのだろうかと思わされます。

この箇所「エルサレム」という言葉を「土浦めぐみ教会」に代えて、もう一度御言葉を読んでみたいと思います。

ゼカリヤ書 8 : 4 - 5 (パワポ)

万軍の主はこう言われる。 再び、土浦めぐみ教会の広場に、老いた男、老いた女が座り、みな長寿で手に杖を持つ。

めぐみ教会の広場は、男の子と女の子でいっぱいになる。子どもたちはその広場で遊ぶ。

何と幸いなことでしょうか！

聖書の御言葉通りの教会が与えられ、そこで皆とともに、主イエス様を礼拝す

ることが出来ていること。

人生を分かち合えていること。

老若男女問わず皆で、神から与えられた命を、人生を共有し、分かち合えていること、何と感謝なことか分かりません。

高齢者の方々の人生で培われた知識や知恵や経験や苦労は、本人にとってばかりか、若い世代や子供たちにとっても益となることでしょう。

また、その背中を見て、感謝と尊敬を学びます。

私自身も、先に召されて行かれた長老方やご高齢の教会員の方々のその背中に感動したこと、教えられたこと数知れずです。

大学生の頃、竹腰長老から伺った教えられた話を元に、期末テストの解答を書いて提出したところ、その科目の成績が、私にとってはとても貴重なAだったことを今でも忘れられません。

このような神の豊かな共同体に属し、入れられ、神の恵みを味合わせて頂いていることが何と感謝なことかと、この御言葉を通して感じずにはられません。

Part One

このゼカリヤ書8：4－5の御言葉は、イスラエルが神の御言葉に従わずに生きたため滅びてしまい、70年間の捕囚生活を通らされた後、遂に母国イスラエルに帰還する時、預言者ゼカリヤを通して神から与えられた“回復”の御言葉です。

だから4節にありますように、神は、“再び”という言葉を用いて語り掛けるわけです。

以前のように“再び”、老いた男、老いた女、男の子、女の子と老若男女あらゆる人々が、まことの神様を喜びながら、与えられた命を喜びながら、数えることの出来ない恵みを覚えながら、互いに喜び合い、支え合い、共有し合うようになるという預言の御言葉です。

そして今、イスラエルばかりか、時を超えて、私たちがその祝福を享受しています。

何ゆえに？ 誰ゆえに？

主イエス・キリストの十字架の救い、赦し、贖いゆえにです。

イスラエル民族に約束されていた“回復”の約束が、イエス・キリストを通して、今こうして私たちにも臨んでいます。

もちろん、これで完成ではありません。

未完成です。 前味です。

私たちのこの地上における共同体は、やがて受け継ぐことが訳されている御国に比べれば、なお未熟で、なお未完で、「天の父が完全であるように、完全でありなさい」というイエス様の仰る完全という状態からは、かけ離れていることでしょう。

それでも私たちは、かの日に現れる、主イエス・キリストの再臨とともに現れる完全な共同体の前味を味合わせて頂く恵みに与っております。

そして、この恵みに与り続け、イエス様の仰る“完全”というところに入れられるために、大切な大きな条件が一つ、このゼカリヤ書の最初に提示されております。

ゼカリヤ書1：1－4（パワポ）

「わたしに帰れ」、「わたしに帰れ」。

主に立ち返り続けること、神の言葉に聞き、信仰の創始者であり完成者である主イエス様から目を離さず、ローマ書12章にもありますように、この世と調子を合わせることなく、神の御心は何か、何が良いことで、何が神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるために自分自身を生きたささげ物として、神を礼拝し続けること、霊とまことをもってともに神を礼拝し続けること、これが、完全な回復のある天の御国の共同体に入れられる大切な大きな条件です。

「あなたがたの先祖のようであってはならない」と、神の御言葉に聞かないことは私たちの滅びを招くということを語り続け、伝え続け、互いに励まし合いながら、教え続けながら、与えられた命を全うするのです。

Part Two

そこで、ゼカリヤ書の言葉をそのままお借りして表現致しますが、「老いた男、老いた女」の皆さんに、神さまから期待され、私たち若者や子供たちから期待されていることがあります。

それは祈りと預言です。

私たち若者たちと子供たちは、「老いた男、老いた女」の皆さんの祈りと預言、即ち、神の言葉を語って頂くことを必要としております。

ぜひ、私たちに神の言葉を語って下さい。

そして、「わたしに帰れ」という神の言葉を教えて下さい。

神の御心を、神の御業を、長い人生の中でご経験された主イエス・キリストを教えてください。

それが、これからの土浦めぐみ教会ばかりか、日本全国の教会の、日本という国の、また世界の一つ一つの国の霊的成長と成熟に繋がります。

イスラエルが滅びた理由は、先程、「神の言葉に従わなかったからだ」とお話し致しましたが、従うも何も、従うべき内容が次の世代に語られなかったために、聞くことも、従うことも出来ずに滅びて行きました。

真に従うべきことが語られる代わりに、この世の中でどうすれば、所謂“良い暮らし”が出来るのかばかりが語られて、その“良い暮らし”が偶像崇拜となり

神の民イスラエルが滅びただけでなく、神の民という地の塩と世の光を失った周辺国家も多大な霊的損害を被りました。

私たちキリスト者が、福音を語らず、福音を生きないことは、社会への大きな霊的損害をもたらすことでもあります。

それが、世の光、地の塩ということですね。

若者や子供たちがいないと嘆く前に、神から今預かっている目の前にいる子供たちや若者たちに、神の言葉を、「わたしに帰れ」という神の声をぜひ語って下さい。

語らずして、回復もなければ、完全への道ありません。

そして、ぜひ祈ってください。

私たちのために、次の世代のために、その次の世代のために祈りください。

もちろん、主イエス様が一日も早く来てくださることが最善ですが、それまでは、次の世代のために祈ってください。

私たち若者と子供たちは、皆さんの、キリストにある老いた男・老いた女たちの祈りを必要としています。

ルカの福音書 2 : 36 - 38 (パワポ)

出来ればどうかこのアンナのように祈り、私たちに御子イエス様について語り続けて下さい。

何の力もなく、自らの人生を見失ったかのように生きていたあのモーセも、御年 80 歳にして、神の言葉を自分よりも若い世代 200 万人以上の人々に語り、祈りました。

老いた男モーセの祈りに、イスラエルの勝利が左右される程でした。

預言者サムエルも、幼い頃から神にその身をささげられた身分でありましたが、年老いてなお、民たちのために祈り、神の言葉を語り続けました。

預言者サムエルが天に召された後には、「私たちのために祈り、私たちの神の言葉を語ってくれたサムエルが亡くなってしまった。国家の一大事だ」と言われる程でした。

イスラエル王国の 2 代目王ダビデは晩年、このように告白しました。

詩篇 71 : 17 - 18 (パワポ)

ダビデは、「神の奇しい大能の御業を、力を、後に来るすべての者に語る」と告白しました。

そうして、今、私たちにも語られています。

このダビデの告白が、老いた男・老いた女の皆さんの告白になることを願ってやみません。

こう言いますと、負担に思われる方もいらっしゃるかもしれません。でもこれは、皆さんの力だけで成す、成されることではありません。神さまの約束の成就が私たちの上に、皆さんの上に、皆さんの内になることです。

Part Three

ヨエル書 2 : 28 - 29 (パワポ)

神は、「後の日に、人々にわたしの霊を注ぎ、わたしの言葉を語らせ、わたしの約束をその心に抱かせる」と約束なさいました。

そして、「この約束の御言葉がどこで成就するのか」と言いますと、このヨエル書の時代から 800 年後の紀元元年、使徒の働き 2 章で成就します。

神の霊・聖霊に満たされたペテロが、怯え怖気づき隠れていたペテロが、ヨエル書の御言葉通りに神の霊に満たされて、堂々このヨエル書 2 章の御言葉を引用しながら、神の言葉をありとあらゆる人々に語り始めました。

使徒の働き 2 : 14 - 18 (パワポ)

ペテロはここで、「老人は夢を見る」というヨエル書の御言葉を語ります。

ペテロ自身も今、夢を見る者へと変えられました。

老後の安寧という夢でもなく、平穩無事な生活を送るという夢でもなく、「預言する」という夢です。

「わたしの霊を注がれた老人は夢を見、彼らは預言する」という夢です。

ここでの“預言”は、予定の予の予言ではありません。

「言葉を預かる」という“預言”です。

つまり、その人生において神から語られ続け、与えられ続け、蓄え、経験した、そして、主イエス様から託されたその神の言葉を、福音を語ること、それが預言です。

神の言葉を語る、福音を語ることには、究極の予定の予の予言も結果的に語ることになります。

なぜならば、神の言葉を語る理由が、かの日に現れる完全な神の国に入れられ・入れるように、主イエス・キリストの十字架の罪の赦しを信じ、救われることだからです。

究極の行く末・終末についても語ることも、預言、神の言葉を語ることなので、

結果的に、究極の予定の予の予言も語ることになります。

だからどうぞ、私たち若者たちに、子どもたちに、神の霊によって預言して下さい。

そして、神の言葉に則った、神の霊による祈りをささげて下さい。

それが私たちの救いになりますし、次の世代の祝福となり幸いとなり、巡り巡って、またゼカリヤ書の言葉をそのままお借りしますが、“老いた男、老いた女”の皆さんの幸いとなることでしょう。

世がくれる幸いとは一味も二味も違う、比較にならない幸いを神が体験させて下さることでしょう。

なので、安心して、キリストにある信仰的聖なる発奮をして頂ければと願います。

信仰に、信仰生活に引退はございません。

Part Four

また幸いなことに、神さまは、キリストの内にある老いた男・老いた女の方々のためにこんな約束をなさりながら、「彼らのことは、私が責任を取るし、責任を持つ」と仰って下さっています。

イザヤ 46 : 4 (パワポ)

詩篇 92 : 13 - 14 (パワポ)

三位一体なる神様は、キリストにあるすべての老いた男、老いた女を救い、守り、導き、育み、背負い、実らせ、恵みを持って満たすと約束して下さい。

だから安心して、続く詩篇 92 : 15 のようにして下さい。

詩篇 92 : 15 (パワポ)

「こうして告げます。主は正しい方、わが岩、主には偽りがありません。」
ぜひ、告げて下さい。

「主は正しい方、わが岩、主には偽りがありません」と宣べ伝え、生き、私たち若者や子供たちに語って下さい。

高齢化社会と言われて久しいこの社会にあって、主にある、キリストにある年
老いた男と女の方々の聖なる発奮が、この国の、この教会の、この日本の教会の
まことの幸いへと繋がることでしょう。

Conclusion

最後に有名な使徒パウロの言葉を読んで終わりたいと思います。

コリント人への手紙第二 4 : 13 - 16 (パウロ)

外なる人は衰えても内なる人は日々新たにされ、主イエスとともによみがえらせられることを知っているがために、信じているがために、私たちは語るのです。

老いた男、老いた女、そして私たち皆が、神の言葉を語り、祈る者でありたいと願います。

お祈りいたします。

祝祷：詩篇 71 : 18